

東シナ海・黄海の水産資源

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-06-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 時村, 宗春
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008592

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



いものが多く、光を巡る競争において本来は不利であろう。近年、高水温や藻食魚の食害発生によって海藻が減少あるいは長く伸びず、この競争関係がなくなったり変化した場所の増えたことが、南方系ホンダワラ類の分布拡大の一因

と考えられる。

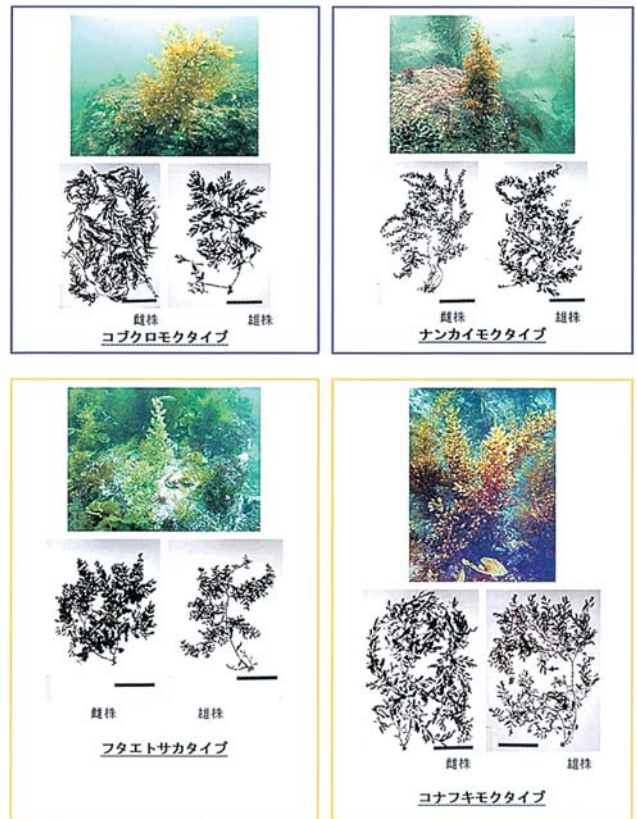
これらの成果は、西海区水産研究所のHP (<http://snf.fra.affrc.go.jp/>) にて公開している(図1)。今後の研究や情報交換等を通じて、より広域に適用できる基準にしていく予定である。

長崎市見崎町地先に出現するホンダワラ属の写真集

※各ボタンをクリックすると、さらに詳しい情報や細部写真のページに進みます。
 →[南方系ホンダワラ類とは]に戻る →[分類チャート]に戻る →[記事の先頭]に戻る

表1. 見崎町地先における南方系ホンダワラ類の分類チャート

1. 藻体下部の葉や枝が下部方向に反曲して生じ、葉の縁の鋸歯は葉の中肋に達する……………	ウスバモク
1. 藻体下部の葉や枝が上もしくは横方向に生じる……………	2. ハ
2. 付着器から生じる主枝には刺があり、葉は又状に数回分枝するものもある……………	キレバモク
(又状に分枝する葉に、縞状の濃淡模様がある)……………	キレバモクタイプ
2. 付着器から生じる主枝の表面は滑らかである……………	3. ハ
3. 生殖器官は雌雄同株である……………	4. ハ
3. 生殖器官は雌雄異株である……………	6. ハ
4. 主枝は細く滑らかで、藻体は60cm以上になる……………	5. ハ
4. 主枝は滑らかかゴツゴツと隆起し、まれに刺を生じる……………	ツクシモクタイプ
5. 藻体は細く柔らかく、1m以上になる場合がある……………	マジリモク
5. 藻体は数十cmで、1m以上にならない……………	シマウラモク
6. 葉は披針形(葉柄に近い部分の幅が最も広い)で先端は尖り、縁には波打ち鋸歯がある……………	コブクロモクタイプ
6. 葉はヘラ形(先端近くの幅が最も広い)から長楕円形(中央付近の幅が最も広い)で先端は尖らない……………	7. ハ
7. 藻体下部の葉の質感が厚く、縁にはあまり鋸歯がない……………	コナフキモクタイプ
7. 葉の縁には鋭い鋸歯が並び、葉の先が杯状に分岐する場合もある……………	8. ハ
8. 葉の質感が薄く小さく、側枝がよく発達する……………	ナンカイモクタイプ
8. 葉の質感が厚く鋸歯が鋭く発達し、側枝は短い……………	フタエトサカタイプ



→[南方系ホンダワラ類とは]に戻る →[分類チャート]に戻る →[記事の先頭]に戻る

(c) Copyright Seikai National Fisheries Research Institute, Fisheries Research Agency All rights reserved.

図1. HP 公開資料の抜粋

うぶすな

—東シナ海・黄海の水産資源—

東シナ海漁業資源部長 時村 宗春

「うぶすな」とは、漢字で書けば「産土」です。「生まれた土地」という意味ですが、日々調査を行っている東シナ海に敬意を表して、このコラムの名前に採用しました。東シナ海は、実に多様な魚が生息する海域です。当部の依田真里研究員が、過去の調査結果を洗って勘定したと

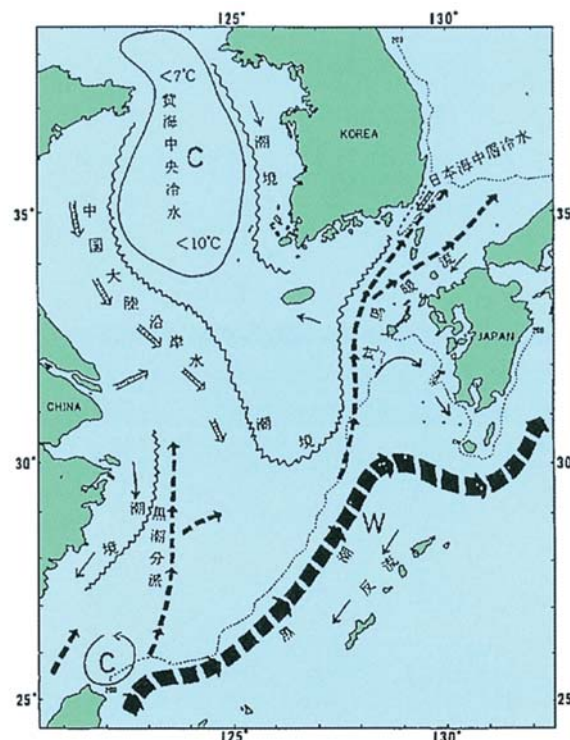
ころ、1100種以上のリストになりました。もちろん、山田梅芳という魚を見分ける名人が、40年間も執念深く研究したという裏事情もありますが、魚の種類が多いのは事実です。色とりどりの魚の棲む亜熱帯水域(琉球列島周辺)から、マダラやニシンが棲む冷たい水域(黄海)、

有明海と同じようにエツの仲間などが棲み、干満の差が大きく浅くて甘くて濁った水域（長江河口～黄海）から、クロマグロの行き交う沖合の黒潮域まで、実に多様な環境を内包していることが背景にあります。当然、量的にも豊かな海ですので、昔から、我が国のみならず、中国や韓国の漁業者の方々がこの海の恩恵を受けながら生活しています。

東シナ海には素晴らしい点がもう一つあります。面積はお隣の日本海などと同じくほぼ百万平方キロもありますが、ほとんどが水深 200m より浅い海域で、離れた所から見ると大きな内湾のようです。内湾は魚の産卵・生育場として優れています。この大きな内湾からは対馬暖流が生まれて日本海に流れるとともに、湾の出口を黒潮が走り、我が国の太平洋側に注ぐ形になっています。

このような地理的条件から、東シナ海は、あじ・さば・いわし、ブリ、クロマグロ、スルメイカなど、日本を代表する魚の主要な産卵場となり、ここで生まれた卵や仔稚魚が日本中に運ばれるような仕組みになっています。大げさに言えば、日本の魚のうぶすなと言えるかも知れません。

もちろん、豊かであるがゆえに、過度の漁獲



夏期における水塊分布模式図（50 m深を中心として画く）
（近藤正人 1985：東シナ海・黄海漁場の海況に関する研究－I. 西水研研報（62）から引用して着色。）

が起きたり、エチゼンクラゲやハリセンボンなど、あまり望まれない生物の「うぶすな」であったりもしますが、それらも含めて、「うぶすな」としての魅力を、次号から本コラムで紹介していきたいと考えます。

水は巡る

—海洋生態系—

東シナ海海洋環境部長 高柳 和史

海の水は絶えず動いています。水平方向だけでなく、鉛直方向にも動きさまざまな物質を運び均一になろうとしています。植物プランクトンの肥料であるチッソ(N)、リン(P)等の栄養塩、呼吸に必要な酸素なども水とともに動いています。水が動き、物質が廻り海洋生態系が維持されています。

冬に冷却され冷たく重くなった海水が底に沈み込み上下の混合が始まります。十分に冷え重くならないと上下混合が起こりにくくなり、水がよどみ始めます。沈み込む水の量が減り、上下混合が弱くなると、海の深いところにある栄

養塩が表面に上がってこなくなります。そうすると、植物プランクトンの発生が少なくなり、それを食べる動物プランクトン、動物プランクトンを食べる魚が少なくなり、食物連鎖が貧弱になります。つまり、海の生産性が低下し、魚の量が少なくなり、魚が捕れなくなるというわけです。海洋生態系は自給自足の世界です。生活に必須の栄養塩、酸素などを運ぶ水の動きはとても大切です。水の循環から魚にいたるまでを模式図に示します。

海洋生態系を健全に維持するために水は巡り続けます。